

令和5年度 本庄市青少年健全育成のつどい



日時：令和5年11月18日（土）午後2時～

会場：本庄市児玉文化会館セルディ ホール

主催：本庄市青少年育成市民会議

後援：本庄市・本庄市教育委員会

本庄市青少年問題協議会

青少年育成埼玉県民会議



次 第

1) 開会のことば

2) 主催者あいさつ …………… 本庄市青少年育成市民会議 会長 芦澤 吉一

3) 来賓祝辞 …………… 本庄市長 吉田 信解
本庄市議会議長 富田 雅寿
本庄市教育委員会教育長 下野戸 陽子
埼玉県議会議員 齊藤 邦明
埼玉県議会議員 飯塚 俊彦

4) 青少年の主張発表

- ・ 未来に向けて…………… 児玉中学校3年 永尾 暖空
- ・ 幸せをつくる…………… 児玉中学校3年 伊東 玲偉
- ・ 言葉の意味…………… 本庄東高等学校附属中学校2年 中山 大誠
- ・ 本当の親孝行…………… 本庄東高等学校附属中学校3年 新井 花凜
- ・ 税理士の仕事…………… 本庄第一中学校2年 石附 果倫
- ・ 僕の家族…………… 本庄第一中学校2年 原 慎之介
- ・ ここが私の…………… 本庄東中学校2年 佐々木 梨乃
- ・ 思春期と自分…………… 本庄東中学校3年 大谷 晃輝
- ・ 私の憧れの職業…………… 本庄西中学校2年 木村 悠人
- ・ 家族と生きる…………… 本庄西中学校2年 齊藤 あやめ
- ・ 私の考える戦争と平和…………… 本庄南中学校2年 飯田 あかり
- ・ 挑戦するために…………… 本庄南中学校3年 齋藤 萌惟

5) 講評 …………… 本庄市青少年育成市民会議 会長 芦澤 吉一

6) 表彰式

- ・ 青少年の主張発表者
- ・ 青少年健全育成標語入賞者
- ・ 青少年育成者等功勞表彰

7) 閉会のことば



ごあいさつ

本庄市青少年育成市民会議

会長 芦澤 吉一

大気が冷たくなり、寒さが深まってまいりました。皆様方におかれましては、日頃より青少年育成活動にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

この「つどい」を主催いたします本庄市青少年育成市民会議は、青少年の健全育成にご尽力されている関係団体で組織しており、青少年育成埼玉県民会議に所属し、内閣府や文部科学省などの情報を得て事業の推進を図っています。

さて、現状を鑑みると、青少年はますます多様な社会的・経済的・文化的な影響を受けています。デジタル時代の急速な進展により、情報へのアクセスが容易になり、新たな機会が提供されている一方で、情報過多やサイバー空間でのリスクも増大しています。また、精神的な健康問題や社会的孤立、教育へのアクセスの不均等など、青少年が直面する課題も多岐にわたります。未来を担う青少年のために、彼らが安心して成長し、自己の能力や素質を発展させていくことのできる環境を整えるために、私たち一人一人が貢献できることがあります。家庭、学校、地域、社会全体が連携し、青少年のニーズに応え、彼らの可能性を最大限に引き出すために協力する必要があります。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年たちがお互いに手を携えながら、元気に笑顔で、夢の実現のために一歩踏み出す人材に育つことを願っています。ふるさとを愛しつつ、国内だけでなく世界で活躍されることを期待しています。青少年が、広い視野と正しい見識を有し、豊かな情操と思いやりの心を身に付け、たくましく未来を切り拓くことができるように環境を整えていくことが、私たち大人の大きな責務です。

本日の「つどい」で行う青少年の主張発表は、青少年に多くの意義深い影響をもたらす活動です。まず、自己成長と自己認識の向上が挙げられます。発表者は、自分の考えや価値観を整理し表現するために、自己認識を向上させ、自己を深く理解することで、成長の機会を享受します。また、公の場での発表を通じて、自信を構築することもできます。自分の意見や考えを他者に伝える経験を積むことは、自己評価を高め、自信が芽生える重要な活動です。あわせて、多くの人々の青少年に対する理解を深め、青少年健全育成を推進する契機として、市内6校の生徒により実施するものです。

次に、青少年健全育成標語は市内小・中学校の児童・生徒から3,126点もの応募をいただきました。本庄市青少年育成市民会議で審査を慎重に行い、最優秀作品と優秀作品を選ばせていただきましたが、どの作品も素晴らしいものでした。

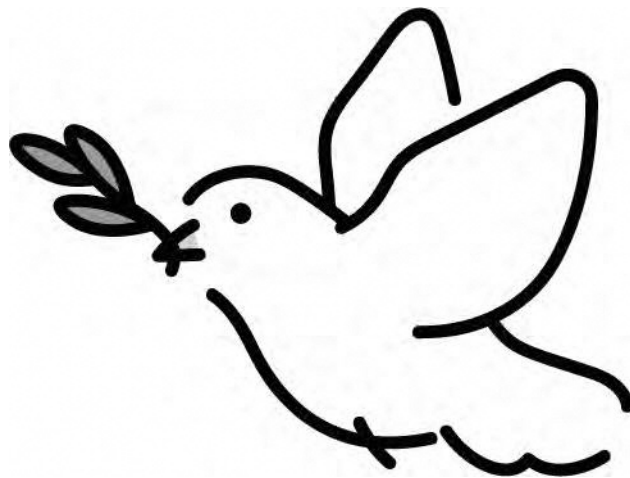
そして、長年にわたり青少年の健全育成にご尽力している方や団体をご推薦いただき、青少年育成功労として表彰させていただきます。地域の青少年育成関係者や団体の皆様には、今後とも変わらぬご指導をお願いいたします。

最後になりますが、日頃より本庄市青少年育成市民会議にご理解ご協力を賜っております皆様にご感謝申し上げます、あいさつといたします。

青少年の主張発表会

青少年の非行やいじめが大きな社会問題として論議されていますが、青少年が大人の社会をどのように見ているか、将来に対してどのような夢を抱いているかを知る機会意外に少ないものです。

大人が、子どもの目を通した率直な意見に耳を傾け、家庭教育や地域の教育力の向上に資することを目的に、青少年の主張発表会を開催します。



未来に向けて

児玉中学校3年

ながお はるく
永尾 暖空



私の将来の夢は、理学療法士です。私は昔から人を助けたり、誰かの力になったりすることが好きです。誰かのために行動すると胸がいっぱいになり、心が満たされます。誰かの力になることで、自分も幸せな気持ちになることができるのです。

私の両親はともに、福祉施設で働いていて、父は障害者施設、母は児童養護施設で働いています。両親ともに人を助ける仕事についています。私は日頃から、両親が働く姿を身近にみていて、この職業に興味をもつようになりました。

小学校6年生のころに、母が「人を助けることが好きなら、理学療法士という職業もあるよ。」と声をかけてくれました。私は、その時初めて「理学療法士」という仕事を知りました。詳しく知りたいと思い、すぐに調べてみました。理学療法士は、身体に障害のある人の運動機能の回復や維持、向上を図り、自立した日常生活が送れるよう医師の指示の下、運動の指導や物理療法を行う医療技術者です。生まれつきの障害や、ケガによって、後ろ向きになっている人たちが、理学療法によって希望をもち、明るくなっていくという記事も読みました。理学療法士について調べ、具体的に知っていくうちに、自分が学んだ技術で、患者さんを笑顔にしたいと強く思うようになりました。

夢に近づくためには、いろいろな分野の勉強をして、努力していく必要があります。私には座右の銘があります。それは「言うは易く、行ふは難し」という言葉です。私は、目標を立てても、自分に甘えてしまいなかなか成果に結びつかないということが今まで多かったです。努力が足りず、「がんばる」という言葉だけで終わってしまうのです。夢を見つけた今、自分に甘えそうになったときは、この言葉を思い出し、勉強に励んでいます。この座右の銘に頼ることなく自分の気持ちをもてる大人になることが最終目標です。

理学療法士になるという夢について考えたときに、必要だと思うことがもう一つあります。それは、自分に余裕をもつということです。自分に余裕がないと人に優しくできません。余裕をもつために、しっかりとした知識をもつこと、そして視野を広くもち、いろいろな考えを受け入れる心をもつことが大切だと思います。まず、自分のやるべきことを計画的に取り組み、余裕をもって生活できるようにしたいです。

私は、現在中学3年生です。進路を選択するというのは、今まで生きてきた中で、最も大きい選択だと思います。夢に向かっての第一歩を踏み出します。今できることは受験に向けて勉強をし、しっかりと準備をすることです。うまくいかず、逃げてしまいたくなることもあるかもしれませんが、座右の銘を胸に夢に向かってがんばります。



幸せをつくる

児玉中学校3年

いとう れい
伊東 玲偉



「ゲームは悪である。」そう考える人は多くいると思います。その理由の多くは、楽しさに中毒性があり、依存してしまう危険性があったり、外に出て遊ぶことが少なくなり、運動能力が低下したりという懸念があるからだと思います。

しかし、私は、ゲームは悪だとは言い切れないと思います。なぜなら、ゲームは単純に楽しむだけのものではないと思うからです。例えば、戦闘するFPSゲームでは、相手の行動に合わせて判断し、どの位置に相手がいるかを記憶することが必要となり、複数のことを同時に考え、処理しながら操作することになります。スウェーデンのカロリンスカ研究所とオランダのアムステルダム自由大学の研究チームが、米国の9、10歳の5,000人以上を対象とした2年間の追跡調査で、テレビゲームをプレイする時間が長い子どもは、IQが2.5ポイント高くなる傾向があったと発表しています。つまり、脳の活性化を促しているということが、科学的に証明されたということです。また、仲間と一緒に協力して考えるという観点では、コミュニケーションがとれるツールと言い換えることもできます。私は、コミュニケーションをとるのがとても苦手でした。初対面の人とはあまり目を見て話すことができず、顔を合わせることもできませんでした。学校などでは、自分から話しかけて会話をすることもなく、休み時間には一人で読書をしていることが多かったです。しかし、ゲームの中での会話になると、戦略の話や、ストーリーの考察、攻略の方法などの話題によって、会話が盛り上がり、たくさんの人と仲良くなることができました。人見知りな私にとって、とても嬉しいことで、幸せな気持ちになりました。また、ゲームをきっかけに多くの友達ができたことで、学校での会話の時間も増え、生活は

より豊かになりました。ゲームはやはりただの娯楽だとは言えない魅力があると感じました。また、父親と一緒にビデオゲームをプレイしたとき、二人で笑いあえて楽しかったという思い出が、私にはあります。親子でコミュニケーションをとるきっかけにもなるということが、自分の体験から言えます。

そんなゲームに惹かれる中で私は、自分もゲームをつくってみたい、つくったゲームで人を幸せにしてみたいと思うようになりました。私はゲームプログラマーになりたいという夢を持ちました。ゲームプログラマーの仕事に就いたら、これからの小さい子どもたちが、私と同じように新しい友達をつくるきっかけとなるような、幸せな体験ができるようなゲームをつくりたいです。また、どんな年代の人でも、わくわくして、大人も童心に帰って夢中になるような、そんなゲームをつくっていききたいとも思いました。

将来ゲームプログラマーの仕事に就いて、自分のゲームで、たくさんの幸せをつくり、与えていけるような人になるという夢に向かって、これからは一生懸命プログラミング言語の勉強をしていきます。また、技術だけではなく、論理的思考力を身に付けられるように努力していきたいです。そして、何より、ゲームを楽しむ心を持ち続けていきたいと思います。



言葉の意味

本庄東高等学校附属中学校2年

なかやま たいせい
中山 大誠



私は小学生の頃、アメリカにいたことがあり、日本に帰ってきてから言葉の難しさに何度も困りました。私は、日本語はとても難しい言語だと思います。例えば「犬も歩けば棒に当たる」ということわざがあります。実はこれ、二つの意味を持ちます。

一つ目は、でしゃばると思わぬ災難にあうということ。二つ目は、動き回っているうちに思いがけない幸運に出会うということです。何故か意味が逆なのです。これでは、人によっては違う意味でとらえてしまうかもしれません。

これは、日常生活でもたまにあります。ある日、私は友達が折り紙でつるを折っていたのを見ました。私は「すごいね。」とほめました。逆に怒られました。最初は意味がわからず喧嘩になりましたが、その後、友達はできが良くなかったのに「すごいね。」と言ったからけなされていると勘違いしていたことがわかりました。

このように、相手は別の意味に受けとめてしまうという事態は良くあります。これを防ぐには、気軽に物事を言ってしまうないように気をつけなければいけません。しかし、それでは友達と安心して話せないと、とても悩みました。

この悩みを、小学生の頃の担任に相談してみました。すると、「相手の状況をみて、これは言うてはいけないなと判断することが大切です。」と、当然のことを言われました。つまり、空気を読めということです。

ですが、それ以前にもがんばって空気を読もうとしましたが、どうも私は苦手なようで、いまいちわかりませんでした。なぜなら、表情にださない人が多いからです。たぶん、相手を嫌な気分させたくないからそうしているのだとわかるのですが、逆に何を考えてい

るかわからなくて、大変です。

私は嫌なことを言われたら、ちゃんと教えてほしいと思います。しかし、それを我慢してしまう人が多いです。それでは嫌な気分をかかえたまま過ごさなければいけません。それはとてもつらく、息苦しいと思います。

ここまでは言う人目線で書いていましたが、逆もあります。

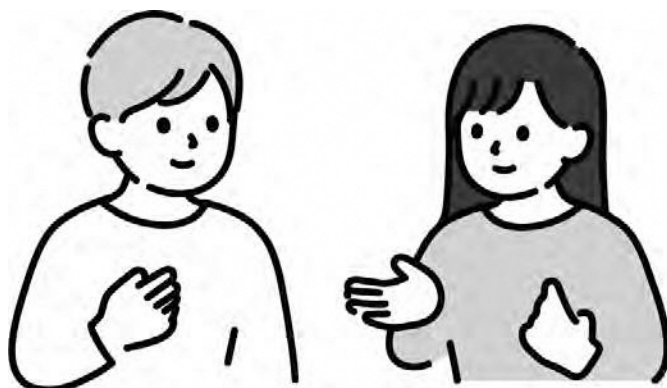
私はある日、難しい英語の本を読んでいた。しかし、難しい単語が多く、とても読めたものではありませんでした。そんないらいらしている時に、「そんな本を読んでいるんだ。すごいね。」と言われました。私はその言葉に更にいらつきました。相手はこの本を読めていると思っていたため、このようなことを言いましたが、実際は逆なので、馬鹿にしているのか、と思いました。幸い喧嘩にはなりませんでしたが、一日中いらついたまま過ごしました。

この日、言われる側はこういう気持ちなのか、ということがわかりました。この日から、ある程度は相手の機嫌が良いか悪いかが想像できるようになりました。

日本語は便利です。しかし、難しい場合もあります。同じ言葉でも人を喜ばせたり、怒らせたりできます。また、ことわざや慣用句などで言いたいことを簡単にまとめて伝えることもできます。その一方、時には誤解をまねく場合もあります。

これは文字でも同じです。例えば「何で来るの?」とラインで送ったとします。自分は来る方法について聞きましたが、相手は何故、来るのかととらえてしまい、喧嘩になってしまうかもしれません。これは文字の会話のため、相手の機嫌を伺うことができません。

私はまず、何故こう聞いたのかを考えてほしいと思います。冷静になれば、相手の伝えたい事がわかると思います。また嫌なことは嫌だと言う。私はみんなが言葉の意味を理解し、おたがいの気持ちを理解できるようにすることが大切だと思います。



本当の親孝行

本庄東高等学校附属中学校3年

あらい かりん
新井 花凜



私の家は、父と母と2歳下の妹の4人家族だ。妹と喧嘩することは日常茶飯事で、言葉の殴り合いを繰り返している。

最近、妹は反抗期だ。多くの人が体験することだ。私だって、両親にイラッとしてしまうことがある。両親の言うことは正論であるからこそ、言い返せないのがなお悔しい。

私たち家族は毎年、夏休みに家族で旅行に行っている。今年は山梨に行こうかと計画を立てていた時だった。

「私は行かない。」

と妹は言った。こんなことは初めてで、私たち家族は理由が分からなかった。しかし、両親は妹の意思を尊重することにした。私もそれが一番いいと思った。一方、祖母は一緒に旅行に行くべきだと言った。

「親孝行は今しかできない。」

と。確かにそうだと思った。両親の判断も祖母の考えも私は両方正しいと思った。妹は自分の意思を持って、きちんと考え、流されることなく、その決断をした。素晴らしいではないか。しかし、両親と一緒にいられる時間が限られているのも事実である。本当の親孝行とは何なのか、私には分からなかった。だから、聞いてみることにした。

母は「元気でいてくれること。」、父は「健康に生きてくれること。」、友達の父は「自分より長生きしてくれること。」と言った。

3人とも子どものことを思った答えだった。世の中には正解のない答えや選択肢が多い。そんな中でも元気に幸せに成長していく姿を見せることが何より大切な親孝行だと思っ

た。今、妹は壁にぶつかっている途中なのだろう。父や母に反抗してしまうのも、きっと何が正解なのか考えている証拠だ。その過程が見られることも、両親にとっては幸せなのかもしれない。私も温かく見守っていきたいと思った。

私たちはまだまだ未熟だ。子どもにも大人にもなれない私たちは、どうすれば大人になれるのか悩んでいる。もしかしたら、両親もそんな私たちに何と声を掛けたらいいのか悩んでいるのかもしれない。それなら、私はいつも通り悪いことをしたらきちんと叱って欲しいし、良いことをしたらこれでもかというほど褒めてほしい。もう、小さい子どもではないのだ。甘えずに自分の道を進んでいく。自分で決めたことを少しずつでも行っていくべきだ。私は今年、ボランティア活動に参加することを決めた。やはり、送り迎えの面で親の協力が必要であったが、両親は応援してくれた。自分で決めてボランティアに参加することができ、嬉しかった。私の行動で多くの人の役に立てるのだと実感した。私はこの実感の積み重ねで成長できたと思う。

最近では以前より、両親が身近に感じられるようになった。小さい頃は、とても大きく頼りがいがあった。もちろん、今でも頼れる存在であることは変わらないが、親でも間違いをするし、つらい時があるということに気付いた。身長も私の方が高くなる日が、そう遠くない未来に来るかもしれない。ずっと支えられっぱなしだったが、これからは両親と支え合っていこうと思った。そして、今度は私が支える番だ。前述に「元気に幸せに成長していく姿を見せることが何より大切な親孝行」だと述べた。しかし、あと一つ付け加えるとしたら、今度は子どもが親を支え、安心させることだ。親はいつも私たちの幸せを願っている。私たちも、その思いに報いるべきではないだろうか。



税理士の仕事

本庄第一中学校2年

いしづき かりん
石附 果倫



私の将来なりたい職業は、税理士です。きっかけは、「税理士になってくれたらな。」という母のつぶやきです。母に、税理士とはどのような職業なのかを尋ねてみると、「国に納める税金を計算する仕事だよ。うちは自営業だから、税金の書類作成は営業する上でやらなきゃならないことなんだよ。」と教えてくれました。小学校高学年だった私は、初めて「税理士」という職業があることを知りました。けれど、その時の私は、税金についてほとんど知らないことばかりで、そういう職業があるんだと思うだけで、あまり深く考えずに話が終わってしまいました。ですが、先日学校の行事で税務署の方に来ていただき、税についてわかりやすく話を伺いました。また、来年に控えている高校受験を見据えて、特別活動などで進路研究を行ったりする中で、改めて税理士について詳しく知りたいと思い、調べてみることにしました。

税理士として仕事をスタートさせるには、三つの独占業務への精通が必要不可欠ということを知りました。三つの独占業務とは、「税務代理」、「税務書類の作成」、「税務相談」です。「税務代理」とは、税務に関してクライアントを代理する業務で、税法関連制度について精通していないクライアントに代わって、税理士が確定申告や税務調査の立会いなどの業務を担うことです。「税務書類の作成」とは、クライアントに代わって各種申告手続きなどに必要な税務書類を作成する業務のことであり、税務書類の作成は税理士の独占業務に含まれているため、無資格者は業務を請け負ってはいけないそうです。「税務相談」とは、税金に関する悩みや困りごとを税理士に相談することで、税金や融資についての相談やアドバイスをすることです。これらの独占業務以外にも色々な業務があり、税理士は幅広く

仕事を行う職業だとわかりました。私はこれらのことを調べた際に、税理士は個人で行う作業がとても多いと思うと同時に、クライアントへの接客という仕事も重要ではないかと感じました。税務に関するアドバイスや相談はクライアントが理解しやすいように説明する能力が求められます。数学の証明と似ていると思いましたが、テンプレートがない分、証明問題よりも難しいのではないかとも思いました。

次に私は、税理士になるためにはどのような資格や試験があるのかを調べました。資格は、代表的なものとして簿記検定がありますが、税理士になるためには税理士試験の合格が不可欠です。税理士試験の特徴として、希望すれば誰でも受験ができる英検などと違い、受験資格があるということです。大学で社会科学に属する科目を履修する、司法試験・公認会計士試験に合格するなどの条件を満たすことが条件です。私は税理士になるためにも大学で専門的な知識を蓄えたいと思いました。社会科学とは、学問の分野の一つで政治学や経済学、法学などが含まれます。一例として経済学部を設置している大学を調べてみると、有名な難関大学の名が多く挙がりました。実際に調べていく中で、税理士になるための長い道のりには、現在習っている中学校での学習も重要だということを実感しました。これからも日々の学習には手を抜かず取り組んでいこうと、改めて思うようになりました。

私は、今回税理士について調べ、仕事の内容や必要な資格について知ることができました。母に聞いた情報だけでは予想が難しいほど、税理士になるまでがとても大変な職業ということもわかりました。ただ私が調べた内容は、きっと「税理士」という職業のほんの一部だと思います。ですが、私はクライアントに寄り添い、解決へと導ける良い税理士を目指したいと思います。自分の力の限りを尽くし、税理士として両親の仕事の負担を減らすことで、良い親孝行ができたらと思います。



僕の家族

本庄第一中学校2年

はら しんのすけ
原 慎之介



「どっこいしょー、どっこいしょ。」

「ソーラン！ ソーラン！」

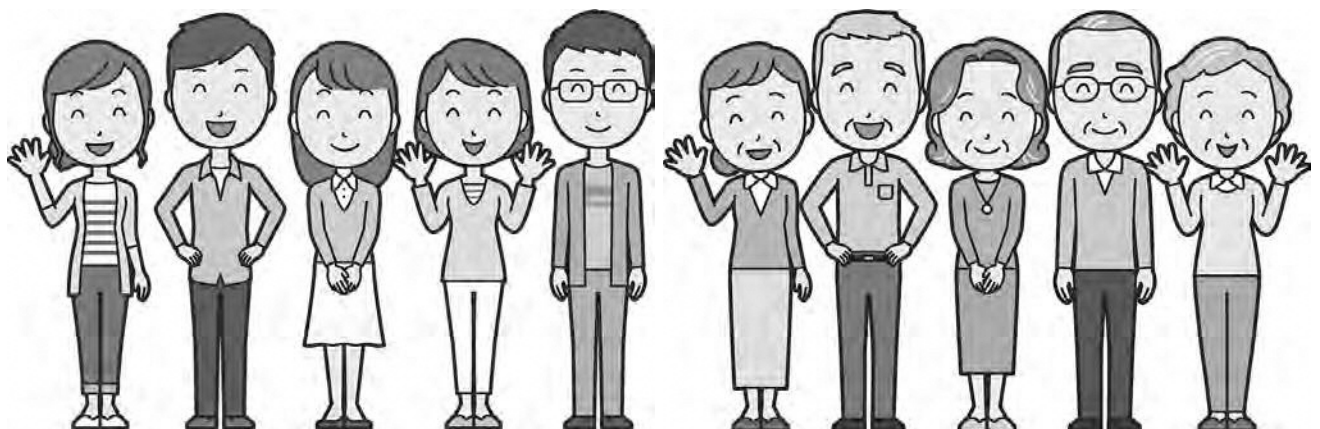
2023年8月5日、僕は叫んだ。カラフルなはっぴを着て足袋を履いて、僕は出せる力の限り、ソーラン節を踊った。両親に連れられてソーラン節を踊り始めたのは2歳の時だ。自分自身がまだ小さかったため、まったく覚えてはいないが、両親から話を聞いてみると、当時は全然踊れておらず、ただ立っているだけだったそうだ。その後、保育園に入り、6歳の時にはやっと踊れるようになってきていた。周りの人たちの踊る姿を必死に見ながら真似をし、一生懸命に踊ったことは今でもはっきり覚えている。

僕の住んでいる地域では、ソーラン節は夏の恒例行事であり、「また夏が来たなあ。」と実感するととても大切なイベントだ。例年、ソーラン節を披露するのは町内の夏祭りであったが、新型コロナウイルスの影響でしばらく実施ができていなかった。一時期はソーラン節を踊るのをやめようという案も出ていたが、それでも、町内の人たちが互いに協力し合い、何度も会議で話し合った結果、今年は4年ぶりのソーラン節の復活となった。夏祭りの本番に向けて、小さい子供から年配の方まで幅広い年代の人たちが地元の住民センターに集まり練習をする。僕も学校や部活から帰って来てクタクタに疲れていても、暑い中、汗を吹き出しながら踊る。もちろん定期考査期間中であっても、勉強の合間をぬって踊っていた。本番当日は、練習の成果をしっかりと発揮して、踊りを見ている人達も手拍子や声出しなどで応援してくれていた。この時、僕には町内が一体となったように感じられた。

また、お祭りでは町内にいるいろいろな職業の人たちが朝早くから集まって、飾り付けや調理、屋台の準備などをしてくれる。そのおかげでお祭りが楽しい雰囲気に入れ、会場全体がたくさんの人たちの笑顔であふれていた。

お祭りの最後は川で灯籠流しを行った。灯籠流しとは、ご先祖の霊をあの世界に届けるための儀式の一つであり、その灯籠に火を灯し、河川や海に流す風習のことだ。電気を消して真っ暗な中、静かに川の音だけが聞こえる。そこには子供たちが描いた絵を照らしながら流れていく灯籠が見えた。7年前、今はもう他界した祖父と手を繋いで灯籠流しを見たのを思い出した。曾祖母が亡くなってすぐの夏祭り。お葬式などで忙しくソーラン節が踊れるかわからない時、祖父は「みんなの晴れ舞台を無駄にはできない、踊りなさい。」と僕たちに言ってくれた。僕たちは悲しみを抱えながらも、みんなが楽しめるように笑顔で踊った。そんな僕たちのソーラン節を見て、祖父は褒めてくれた。今年も、祖父はきっと、優しい笑顔で僕たちの踊りを見守ってくれていたと思う。

僕の家は、父、母、妹だけだが、町内には多くの家族が住んでいる。会うと必ず声を掛けてくれるお父さんたち。部活を応援してくれるお母さんたち。ソーラン節と一緒に踊ってくれる友達。挨拶ができないと叱ってくれる近所のおじいちゃん。時々、美味しいご飯を届けてくれる隣の家のおばあちゃん。お互いに絆でつながっているように感じられ、どの人も僕とは血がつながってはいないけれど、僕にとっては自慢の家族だ。夏祭りは、多くの人のたくさんの絆を実感できる大切な場所であり、大切な思い出が詰まっている場所だ。だから、僕はこの祭りがいつまでも続いてほしいと思う。僕が大人になっても、いつまでも、たくさんの人たちとソーラン節と一緒に踊れるように。



ここが私の



本庄東中学校2年

さ さ き り の
佐々木 梨乃

中学校に入学してすぐだった春。小学校から中学校へと大きく環境が変わったばかりだったその頃、私はまだ自分の「居場所」を見つけることができないでいました。

私は今、剣道部に所属しています。きっかけは、友人に誘われて行った剣道部への体験入部でした。もともと私は剣道をやったことが無く、最初は入りたいとは思っていませんでした。ですが、明るく優しい先輩達の人柄にひかれ入部を決めました。そして、入部してから顧問の先生に手ぬぐいを貰いました。剣道で手ぬぐいは、面という頭に付ける防具の下に巻く役割をしています。そんな手ぬぐいに書かれていた言葉は、

「頑張る時はいつも今！」

というものでした。この言葉は、顧問の先生が大切にしている言葉だそうです。私にとってこの言葉は剣道の試合に勝つことへのプレッシャーではなく、勇気や自信をくれる応援の言葉です。

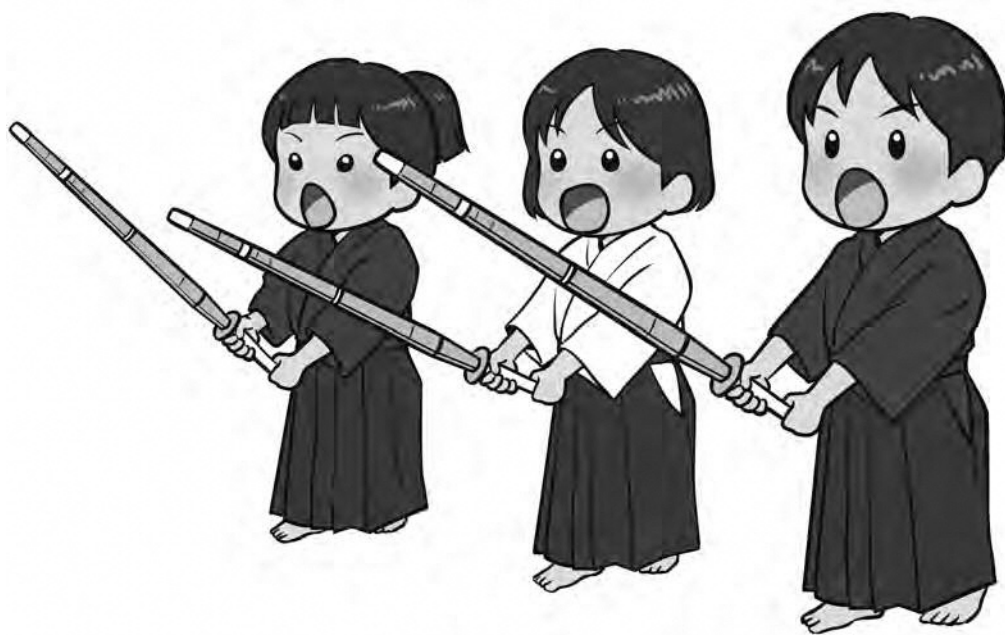
剣道の団体戦は、基本5人でやります。人数の少ない私たちのチームは、4人で団体戦に臨みました。一人少ない分、私たちのチームには不戦敗があります。そのため、負けることのできない大事な役割を一人一人が背負っています。団体戦で勝つには、次につなぐというチームとしての意識を持つことが大切だと先生に教わりました。それから私は、このチームには自分という存在が必要不可欠であるのだと自信を持ち、試合に臨むことができます。また、先生は、

「成功する人は、人に恵まれている。」

とも言っていました。このように私たちが部活動に専念して取り組むことができているの

は、先生をはじめ、一緒に取り組む仲間や支えて下さる保護者の方の力があってこそなんだと思います。日々感謝をしながら一生懸命に取り組んでいきたいです。

私の所属する剣道部は、いつも明るく活気のある仲の良い部です。そんな剣道部は、いつの間にか私の「居場所」になっていました。それは、剣道部には信じられる仲間と頑張りたい理由や目標など、たくさんものがあるからです。だから私はこの剣道部で日々努力をし、剣道の技術面だけでなく、人としても成長していきたいと思います。たくさんの人に信頼できる人のいる「居場所」が見つかるよう願っています。



思春期と自分

本庄東中学校3年

おおたに こうき
大谷 晃輝



私は中学生だ。中学生といえば思春期。思春期といえば、人間関係の悩みを抱える時期だと私は考えている。私自身にも少なからずそれはある。私は憶病だ。誰とも衝突したくない。誰にも嫌われたくない。私はそのような思いで日々生きている。言葉はその場にいる人全員に棘が刺さらぬように、行動は自分へ悪いイメージを抱かせぬように、私は本来の気持ちを隠して、毎日を過ごす。それでも私は他人の心が読める訳ではないから、私のあの言動は正しかったのかといつも不安になり、悩む。時に自分は正しかったと信じ、時に自分は間違ったと後悔する。

常に自分に制限をかけ、周りに気を遣うのは苦しいが、それによって得られた恩恵があり、それを軽はずみな言動で手放したくない。だから私は嘘を吐く。それが最善だと今は考えているから。

しかし、私は気付いている。何故、私は自分の気持ちを隠さなければいけないのか。それは私が本来の自分を出せば、誰かを傷つけ、誰かに悪く思われてしまうと思っているからだ。理想と本来の自分との心情の差異。それが私を嘘へと駆り立てる。それを克服するには、きっと本来の私が誰も傷つけない清らかな心の持ち主になるか、批判を意に介さない強靱な心の持ち主になるしかないのではないかと思う。私は憶病だから前者になりたい。だが、誰も傷つけない心になろうと試みたところでそれが可能かは分からないし、変わることができたとして、変わった自分が、本当に本来の自分と言えるのかも分からない。結局、私はほとんど何も分かっていないのだ。だからといって、立ち止まっている訳にはいかない。傷つけないよう用心し、それでも傷つけてしまうかもしれないが進み続けるしか

ないのだろう。そして、このような不安が思春期であり、私自身もそれに傷つけられているのだと考える。いつか自分なりの正解を見つけられるまで、この分からないことばかりの思春期という暗がりの中を傷つき、模索しながら歩んでいきたい。



私の憧れの職業

本庄西中学校2年

きむら ゆうと
木村 悠人



私はオーケストラの指揮者にとっても憧れています。音楽には、表現力や感情表現があります。それを一つのまとまりにして、聴く人々に感動を与えることができるのは、指揮者の力だと思います。指揮者は、演奏者たちと共に作品を生み出し、音楽の魅力を最大限に引き出す役割を果たしています。

指揮者は、音楽におけるプロフェッショナルです。そのため、幅広い知識や技術が求められます。楽器の演奏技術に加えて、作曲家や作品に対する深い理解も必要です。また、指揮者は一人の音楽家だけでなく、多くの演奏者やスタッフと協力しなければなりません。それぞれの個性や専門性を引き出し、一つの団体としての調和を築くことも大切です。

指揮者になるためには、まずは自身の音楽の基礎をしっかりと築くことが必要です。音楽理論や作曲、様々な楽器の演奏を学び、幅広い音楽ジャンルに触れることが大切です。

また、指揮法やスコア読み、指揮者としての表現力など、専門的な知識や技術も磨かなければなりません。

そして、指揮者は一人の音楽家としての素養だけでなく、リーダーシップやコミュニケーション能力も重要です。演奏者たちが一つの目標に向かって協力し、共有の感動を作り出すためには、指揮者としての魅力や信頼も必要です。

私は本庄西中学校の吹奏楽部に所属しています。8月4日に夏期吹奏楽コンクールがありました。結果は銀賞の1番上でした。個人の反省としては、指揮者である吹奏楽部の外部指導の先生の方角を演奏中に見る回数がとても少なかったことです。その結果、ミスを多くしてしまいました。来年は、より指揮者と演奏者でしっかりと一つの曲になるように

練習し、金賞を目指していきたいです。

最後に、私の将来の夢はオーケストラの指揮者です。オーケストラの指揮者になることで、音楽の魅力を広め、人々に感動を与えたいと思っています。音楽は言葉を越えた共通の言語であり、それを通じて人々の心を動かす力があります。指揮者として、演奏者たちと共に一つの音楽を作り上げる喜びや感動を味わいたいと思っています。

この夢を叶えるために、私は残りの中学校生活、一日一日をなんとなく過ごすのではなく、具体的な目標をもって生活していきたいです。また指揮者の道に進むために、部活動や勉強に、より真剣に取り組んでいきたいです。



家族と生きる

本庄西中学校2年

さいとう
齊藤 あやめ



私には、家族がいます。お父さん、お母さん、弟、ペットの鳥、そして私です。私の家庭では、お父さんは夜に、お母さんは昼に仕事へ行き、私と弟は学校へ行っています。お父さんは夜に仕事へ行き、朝方帰ってくるので、私が学校へ行く頃は寝ていることがほとんどです。なので、平日はほとんどお父さんに会いません。もちろん食事の時も私とお母さん、弟の3人で食べる事が多く、家族全員がそろった団らんは土日以外ありません。だからこそ私は、土日の家族団らんの時間を大切にしています。家族みんなでお出かけしたり、食事をしたり、お話をする時間はとても楽しく、有意義に過ごすことができます。

このことを友達に話すと、驚かれることが多いです。例えば、友達の家庭では学校を除く毎日毎食家族全員で食事をしていたり、常に家族の生活リズムが整っていたりと色々な違いがありました。ほかにも、土日こそ家族がバラバラで過ごしていたり、家庭の事情でお父さんが居ないシングルマザーやヤングケアラーなど、家族構成の違いもありました。ですが、どの家庭も大切な人達と共に生きる家庭であると思っております。私には小学生の頃、辛い経験をして心を閉ざしてしまった時期がありました。そんな時、私に寄り添っていやしてくれたのもまた、家族でした。その時期は笑顔で笑う事も難しく、人間関係に壁を作り拒絶していました。ですが、そんな人間不信になってしまった私を、家族は見捨てないでくれました。何を言ってもだまり込み口を閉ざし、口を開いたかと思えば文句ばかり言っている、家族は優しく受け流し真剣に私と向き合ってくれました。そんな家族の努力があったおかげで、私はしだいに口数が増え、自分のことについてよく話すようになりました。自分がどのような事に傷つき、なにが嫌で今後どうしたいか、また、心を閉

ぎってしまった理由などもこと細かく話せるようになりました。そして家族とたくさんコミュニケーションをしたことにより、私は自分の夢と目標を見つけ、人と話すことが好きになりました。

私にとって家族とは、どんなに辛い時も寄り添い、支え合い、お互いを思い合う、そんな大切な存在です。ですが、近年ニュースで身内殺人や虐待、ヤングケアラーによる不十分な学習の問題など、家庭や家族の問題をよく見ます。私はそのような問題についての理解を試み、本やネット記事、インターネットなどで沢山調べてみました。すると、やはりどの記事でもそのような犯罪と家庭環境、家庭は密接に関わっていて、家族との絆や信頼関係はとても重要であることがわかりました。ですがどんなに頑張っても理解しようとしても、実際に体験したのと、していないのでは大きな差があるような気がしました。なので私は、完全にそのような事件や犯罪は、少しの努力で変えていくことができるのではないかと思います。家族みんなが一人一人を人として尊重し、大切にすることができればもっと良い家庭を築くことができると思うのです。

家族とは、共に暮らしたり、同じ時間を共有したり、互いの存在を認め合うことで成り立っていると思います。家族だから言葉使いに気を配らず乱暴に接するというのは、とても残念に思います。一番近くに居るから傷つけやすく、簡単に壊れてしまいます。だからこそ、今ある平凡な日常が当たり前にあるものではなく尊いものだということを胸に置き、一日一日を大切に生きていきたいと私は思います。



私の考える戦争と平和

本庄南中学校2年

いいだ
飯田 あかり



「戦争」という言葉を世界からなくしたい。さらに、「平和」という言葉も「戦争」という言葉とともに世界からなくしたい。私がこう考えるのには理由があります。

「世界を平和に」という言葉をよく耳にします。しかし、私は「平和」という言葉があまり好きではありません。もちろん「平和」はみんなが幸福に暮らせている証で、希望に満ち溢れた明るい言葉だと思います。それでも、私は「平和」という言葉は好きではありません。なぜなら、戦争があるから平和が存在すると考えているからです。つまりこれは、もしこの世界がもともと戦争がなく、常に平和だったなら、人々はわざわざ「平和」という言葉を作り出さなかったのではないかということです。さらに、言葉の視点から考えると、「戦争」や「平和」という熟語には、類義語や対義語が存在します。「戦争」の場合、対義語は「平和」でした。やはり、私は戦争があるから「平和」という言葉が存在していると思うのです。しかし、私は決して「平和」という言葉を批判しているわけではありません。ただ、世界は平和であるべきなのに、戦争があるせいで平和が強調されることがおかしいと思っているのです。

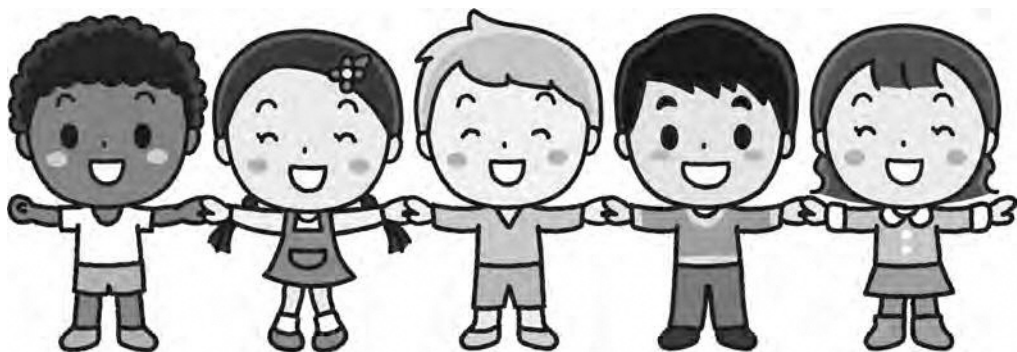
戦争はあるべきではありません。多くの死傷者を出し、人々の日常を奪い、かけがえない大切な人を奪い、夢や希望を奪い、そして何より、人々の心に一生消えることのない傷を残します。そこにはなんの利益もありません。奪うものばかりで、与えるものはありません。しかし、そんな戦争がまだこの世界で起こっています。ロシアによるウクライナへの侵攻、シリアの内戦やイエメンの紛争。それだけでなく、まだまだ多くの戦争が世界中で起こっています。それらは全て、人々から多くのものを奪っています。ロシアによる

ウクライナへの侵攻は、連日流れる報道で見ている、本当に辛かったです。泣いている子ども、離れ離れになった家族。今の日本では考えられない、壮絶な光景が広がっていました。かつて日本が経験した第二次世界大戦と同じことが起こっています。

今年、日本は戦後78年を迎えました。日本は唯一原子爆弾を落とされた国です。戦争の辛さを、悲惨さを、日本は知っているはずですが。そんな日本から、今こそ、戦争の悲惨さを、平和の大切さを伝えるべきではないでしょうか。戦争の凄惨な光景を見ているのは辛いですが。やはり、世界は平和であるべきです。世界中の誰もが夢や希望を持ち、かけがえのない大切な人と過ごし、ありふれた日常を笑顔で幸福に過ごす。これが世界のあるべき姿だと思います。

私は、世界から戦争をなくしたいです。しかし、それは、はるか遠い道のりだろうと思います。もしかすると、私たちが生きている間には叶わないかもしれません。それでも私は、私たちのために、そしてはるか未来を生きる私たちの子孫のために、安心して幸福に暮らせる世界を実現させたいです。そのために、私はどんな些細なことでもやりたいと思います。戦争について知ることができる機会があるならば参加し、戦争で苦しんでいる人々を支援できるならば寄付や募金に参加したいと思います。戦争は人の手によって起こっているものです。必ず人の手で終わらせることができると私は信じます。

私たちがいないはるか遠い未来に、もはや「平和」という言葉がいらなくなるほど、世界中の人たちが当たり前で幸福に暮らせることを切に願います。



挑戦するために

本庄南中学校3年

さいとう めい
齋藤 萌惟



私は、挑戦することが人生において最も重要であると考えています。挑戦するには、勇気と意志が必要です。勇気がなければ行動することはできず、意志がなければ明確な目標を持って努力することができないからです。強い意志と勇気を持って挑戦することが成功につながると考えています。しかし、人間は失敗をします。失敗をすることを恐れて、挑戦する勇気が出ない人がたくさんいます。挑戦することを避け、「現状維持」でいいのでしょうか。「失敗は成功のもと」という言葉があります。うまくいかないことがあってもネガティブに捉えすぎず、学ぶ機会だとポジティブに捉え、経験を活かして次の挑戦ができれば、それは失敗ではないと言えます。

さらに、私は、日本には変えていくべき風潮があると考えます。それは、物事に取り組むにあたり、周りの人からの言葉の影響で挑戦するのをやめてしまうことです。人は、互いに人の夢を素直に応援し、積極的に前向きな言葉でアドバイスをし合える関係であるべきだと思います。また、自分のためにすべきことは、自ら挑戦しやすい環境をつくることです。そのために、取り組むべきことが三つあると考えます。

一つ目は、現在の自分の環境を理解することです。求める結果を得るために、現状に不足していることを理解します。環境に左右されることなく結果を出せる人もいますが、自分の環境を整えていくことでより充実した結果を得ることができると思います。

二つ目は、自己分析をすることです。何をしていると楽しく感じ、どのような時にプラスの感情を持つのかなど、自己理解を深め、自分の興味関心を具体化します。そこから自分の得意分野を見つけることで、活躍の場を広げていくことができます。

三つ目は、個性を尊重することです。「自分はこれをやってみたいけれど、みんながやっていないからやめておこう。」という声をよく耳にしたり、雰囲気を感じたりして残念に思うことがあります。「みんながやっていないからやってみよう。」という気持ちを多くの人が持てるように、自分らしさやその人らしさを尊重する世界をつくっていきたいです。

集団の中で生活していると、時に、周りに合わせるべきかと悩むことがあるかと思えます。人と違うことに不安を感じる人は多いでしょう。一人一人の大切な意見を、同調圧力によってつぶしてしまつては個人の自由はなくなります。周り意見が食い違うことがあっても、その意見の一つ一つを理解した上で、自分の貫きたいものを大切にしてほしいと思います。どんな時も「自分が何を感じるか」を大切にしていこうと、私は決めています。自分の気持ちに正直にすることが、自分が挑戦し成長していくための第一歩だと思います。他人とは違う価値観を大切にすることで、学べる機会は多くあると思うので、自分自身の気持ちにうそをつかず、自信を持って思ったことを伝えていくべき、取り組んでいくべきだと思います。

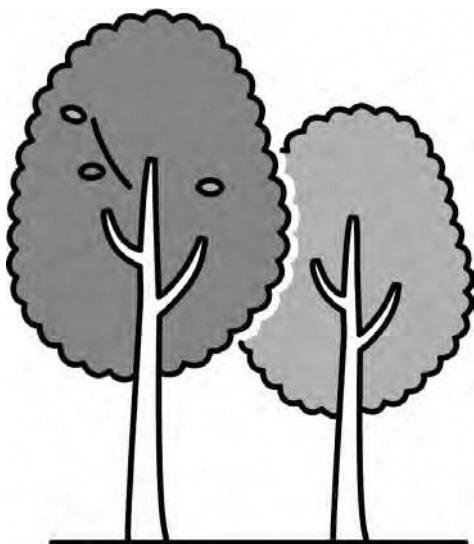
私は、これらのことを大切に、日々さまざまなことに挑戦し続けていきます。まずは自分が強い姿勢を持って過ごし、周りにも働きかけていくことで、今私が感じている改善すべき風潮をなくしたいです。誰にとっても生きやすく、素晴らしい環境となっていくことを願っています。大人ではなく、中学生の私だからこそ持てる意見として、一人でも多くの人の心に残れば嬉しいです。



青少年健全育成標語

入賞作品

本庄市青少年育成市民会議が市内全小・中学校より青少年健全育成標語を募集したところ、今回は3,126点のご応募をいただきました。どの作品もすばらしいものでしたが、市民会議で厳正に審査した結果、次のように最優秀作品2点、優秀作品15点を決定させていただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。



令和5年度 青少年健全育成標語入賞作品 (小学生の部)

最優秀作品

中央小学校 6年 かんべ 神部 はる

「ありがとう」 感謝の言葉で 恩返し

優秀作品

北泉小学校 5年 いしかわ 石川 のあ 乃有

今日のこと たくさん話した 夕ごはん

本庄南小学校 5年 いづ 伊津 まなか 愛華

がんばって どんなときでも そばにいる

児玉小学校 5年 いとう 伊藤 りりな 莉々菜

なくなるない からだのきずより 心のきず

児玉小学校 6年 かない 金井 こたろう 琥太郎

非行見て やめようと言える その勇気

本庄南小学校 5年 さいとう 斎藤 みお 美音

いじめって 笑顔をうばう どろぼうだ

旭小学校 6年 みやした 宮下 あいり 愛莉

やさしさは 行動しなきゃ 伝わらない

秋平小学校 6年 ゆうき 結城 ここあ 心愛

「大丈夫？」 言葉をかけ合い 支え合い

令和5年度 青少年健全育成標語入賞作品 (中学生の部)

最優秀作品

本庄東高等学校附属中学校 3年 なかの 中野 こはる 来春

あいさつは みんなを繋げる 「愛」言葉

優秀作品

本庄南中学校 1年 いいの 飯野 りま 莉万

「大丈夫？」 誰かを助ける カギになる

本庄南中学校 3年 いしい 石井 ここな 瑚々奈

SNS 消しても消えない その言葉

見玉中学校 3年 うらしま 浦島 かりん 花凜

流されない 自分の未来を 守るため

見玉中学校 2年 おおだいら 大平 ここね 心音

お互いの ステキな個性 認め合おう

本庄西中学校 1年 さわだ 澤田 まな 茉奈

見てるだけ？ 勇気をもって 声を出そう

本庄東中学校 2年 たかやなぎ 高柳 みほ 未歩

軽い気持ちで 始まるイジメ
されてるあの子はどう思う？

本庄第一中学校 3年 ちば 千葉 つぼみ

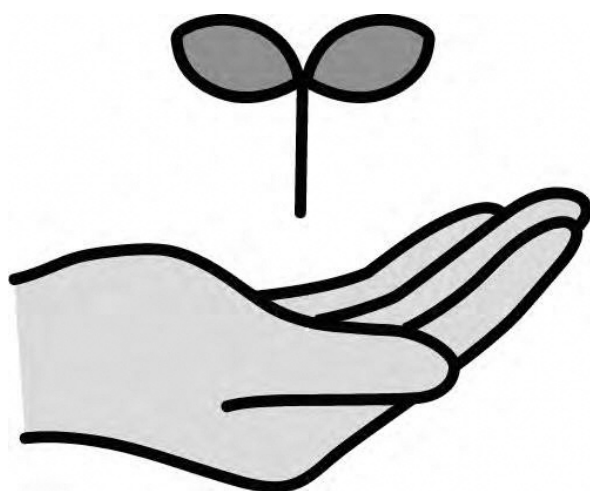
なくそうよ 笑顔のうらの 冷たい涙

本庄東高等学校附属中学校 3年 みうら 三浦 りんこ 凜子

画面より 目を見て話そう 人と人

青少年・青少年育成者等 功労表彰

青少年の健全育成に努め功績顕著な者、青少年のうち他の模範となる者、及び他の規範となる活動を継続的に行っている青少年団体等を表彰し、その実績を広く市民の皆様にご紹介いたします。



令和5年度 本庄市青少年育成市民会議 青少年・青少年育成者等功労表彰受賞者(団体)一覧

●青少年育成者の部

- ・茂木 秀夫（前本庄市民生委員・児童委員協議会会長）

平成22年12月から民生委員に就任し、以後、平成25年12月に旭地区民生委員児童委員協議会地区会長、平成28年12月から令和4年11月まで本庄市民生委員児童委員協議会会長として活動する傍ら、小学校の下校時の見守りが本格的に取り組まれる前から、見守り活動を開始し、その活動を根付かせた。その功績は顕著であり、青少年の健全育成に貢献している。

- ・関根 恵津子（本庄市更生保護女性会 会員）

昭和45年から本庄市更生保護女性会の会員であり、半世紀以上の長きにわたり、市内の小中学校へ図書費として贈呈する「愛の募金」に協力し続け、青少年の健全育成に貢献している。

- ・高橋 猛（本庄バレーボールクラブスポーツ少年団 代表・本庄市スポーツ少年団 副本部長）

平成24年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得後、平成30年に本庄バレーボールクラブスポーツ少年団を立ち上げ、代表として11年にわたり小中学生へ指導を行っている。令和4年度からは本庄市スポーツ少年団副本部長としてその理念を深く理解し、子どもたちにスポーツの楽しさを教え、豊かな心を育む努力をするなど、その活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

- ・波多野 克也（本庄アタッカーズスポーツ少年団 チーム代表）

本庄アタッカーズスポーツ少年団のチーム代表として、長年にわたり子どもたちにドッジボールの指導を行っている。平成26年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。その後、全日本ドッジボール協会の認定の域を超え、現在はスポーツ庁認定のドッジボール指導員の資格も取得し、技術指導だけでなく他者への思いやりや礼儀についても指導するなど、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

- ・鈴木 敦子（本庄アタッカーズスポーツ少年団 マネージャー・認定育成者）

本庄アタッカーズスポーツ少年団設立当初はマネージャーをしていたが、その後、指導者として長年にわたり子どもたちにドッジボールの指導を行っている。平成26年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。勝つための技術指導だけでなく、子どもたちに他者への思いやりや礼儀についても指導するなど、青少年の健全育成に貢献している。

- ・三友 基雄（本庄剣道スポーツ少年団 副会長）

本庄剣道スポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小中学生へ剣道の指導を行っている。平成26年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。現在は本庄剣道スポーツ少年団副会長として団の振興にも尽力しており、子どもたちの競技力の向上のみならず、礼儀や他者への思いやりの心を養うなど、青少年の健全育成に貢献している。

- ・ こだい ら とも や
小平 智也（本庄エンゼルススポーツ少年団 監督）

本庄エンゼルススポーツ少年団の監督として、8年にわたり小学生へ少年野球の指導を行っている。平成26年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。野球を通して子どもたちに協調性、礼儀・礼節、人間力の育成指導に尽力し、また整理整頓、清掃など、その活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

- ・ たきざわ ひろ ひと
滝澤 博史（本庄ロータリークラブ 2022-2023年度 青少年奉仕委員会委員長）

本庄ロータリークラブ会員として、毎年、上里学園の全児童のためのイベントを企画し、各団体へその趣旨を説明しながら寄付を募り、イベントを実施してきた。その他にも交換留学生の支援をするなど、青少年の健全育成に貢献している。

●団体の部

- ・ 本庄市更生保護女性会（昭和31年設立）

犯罪や非行のない明るい社会をつくることを目標として活動している。矯正施設訪問研修の実施や「社会を明るくする運動」への参加のほか、各小中学校へ図書費として寄付をするために「愛の募金」活動を続けており、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

- ・ コットンキャンディ（平成9年設立）

仁手小学校において、25年の長きにわたり、児童への読み聞かせボランティアを行っている。毎月1回、朝8時15分から15分間、クラスに出向いて読み聞かせを行い、また、年1回、全校児童を対象とした「合同読み聞かせ」を実施している。子ども達に本の魅力を伝えるため、学校と連携しながら活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

- ・ あおぞら（平成16年9月設立）

旭小学校において、18年の長きにわたり、児童への読み聞かせボランティアを行っている。毎週水曜日に読み聞かせの打合せや練習会を実施し、翌木曜日朝8時20分から15分間、各学級に出向いて読み聞かせを行っている。また、年に1回、卒業生を対象に「卒業読み聞かせ会」を実施している。子どもと本の出会いが途切れることのないよう尽力し、青少年の健全育成に貢献している。

- ・ 本の泉（平成15年4月 設立）

北泉小学校において、19年の長きにわたり児童への読み聞かせボランティアを行っている。毎月1回、朝8時15分から15分間、各学級に出向いて読み聞かせを行い、また、年3回、全校児童を対象にした「おはなし会」を実施している。心豊かな子どもを育てることを大切にしたいボランティア活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

本庄市青少年育成市民会議の活動のようす



▲青少年健全育成のつどい



▲非行防止パトロール



▲社会を明るくする運動



▲親子名作映画劇場

青少年育成埼玉県民会議にて表彰されました

昨年、11月27日（日）に、知事公館大会議室にて「令和4度青少年育成埼玉県民会議表彰式」が開催され、本庄市からは千田 麗子 様が「青少年育成功労賞」を受賞されました。青少年育成功労賞は、青少年の健全育成に資する活動を長年にわたり行っている個人・団体に対する表彰です。

せん だ れい こ
千田 麗子 様

本庄市青少年育成推進員として、学校訪問や子供たちの見守り活動等を通し、青少年の健全育成にご尽力されています。また、本庄市青少年育成市民会議理事として、市内中学校2年生を対象とした「青少年育成管外研修」の引率や、よりよい親子関係を築く一助となることを目的に実施する「親子名作映画劇場」等、当市民会議の事業に関わり、青少年健全育成のための活動に貢献されています。



令和5年度「少年の主張埼玉県大会」で2名が受賞しました

「少年の主張埼玉県大会」は、埼玉県、埼玉県教育委員会、青少年育成埼玉県民会議等が主催し、昭和57年度から続いている歴史ある大会です。1次審査で小学生の部、中学生の部、高校・一般の部から5名ずつ選出し、2次審査で発表をします。2次審査では、各部門、最優秀賞1名、優秀賞1名、優良賞3名が決まり、中学生の部については11月に行われる全国大会に推薦されます。

令和5年8月20日 さいたま共済会館大ホールにて、令和5年度「少年の主張埼玉県大会」が開催されました。今年度の大会には、小学生の部1万7,141名、中学生の部1万9,000名、高校生・一般の部3,042名、合計3万9,183名の応募がありました。本庄市からは、本庄東中学校の村上滉歩さんと早稲田大学本庄高等学院の山口耕平さんが出場し、自分の考えや思いをステージ上で堂々と発表しました。2次審査の結果は以下のとおりです。

最優秀賞（知事賞）



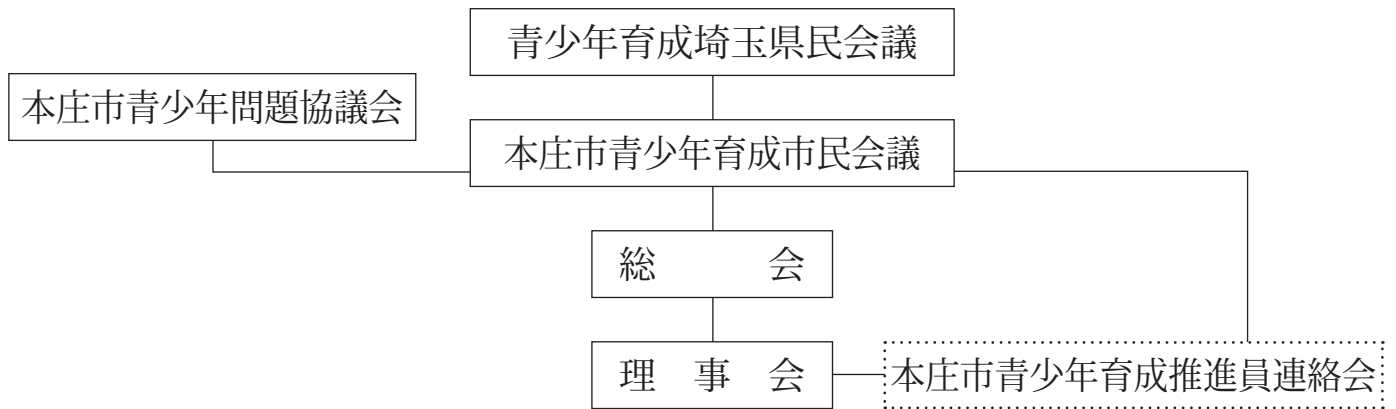
本庄東中学校3年 村上 滉歩 さん
「私のおばあちゃん」

優良賞（青少年育成埼玉県民会議会長賞）



早稲田大学本庄高等学院1年 山口 耕平 さん
「絶滅を選ばな—未来の地球のために」

本庄市青少年育成市民会議組織図



No.	団体名	評議員	理事
1	本庄市子ども会育成会連合会	2	1
2	本庄市スポーツ少年団	2	1
3	(公社) こだま青年会議所	2	1
4	本庄市民生委員・児童委員協議会 (主任児童委員)	2	1
5	サラ本庄	2	1
6	本庄地区保護司会本庄支部	2	1
7	児玉地区保護司会児玉支部	2	1
8	本庄市更生保護女性会	2	1
9	本庄市児玉町更生保護女性会	2	1
10	本庄上里地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
11	児玉郡南部地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
12	熊谷人権擁護委員協議会本庄部会	2	1
13	本庄市自治会連合会	1	1
14	本庄ライオンズクラブ	2	1
15	本庄ロータリークラブ	2	1
16	本庄商工会議所	1	1
17	本庄市老人クラブ連合会	2	1
18	本庄市福祉事務所 (地域福祉課)	2	0
19	本庄市青少年相談員協議会	1	1
20	本庄市青少年育成推進員連絡会	0	25
合計人数		35	43

本庄市青少年育成市民会議

(事務局)

本庄市教育委員会 生涯学習課

〒367-8501

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

TEL : 0495-22-3248

FAX : 0495-22-1193

電子メール : gakusyu@city.honjo.lg.jp



毎月第3日曜日は
「家庭の日」

毎月第3日曜日は「家庭の日」

家庭は、青少年を健全に育成するための最も重要な生活の基盤です。青少年育成埼玉県民会議では、家庭と家族一人ひとりが愛情と信頼で結ばれ、心のふれあいを図ることのできる場とするため、毎月第3日曜日を家庭の日と定めています。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年の健全育成を目的として、家庭の日の普及を推進しています。また、各種青少年育成団体相互の連絡協調を図りながら、社会環境の浄化の推進及び青少年の健全育成活動を推進しています。

